

金沢市立内川小学校  
平成29年度 学力向上の取組（2学期）

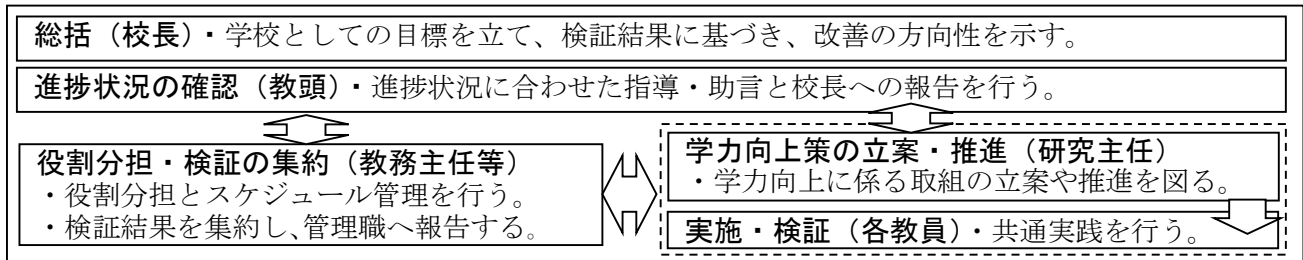
1 現状・課題(平成29年度学力分析シートから見える現状・課題)

<p>(1) 全国学力・学習状況調査、石川県基礎学力調査の結果より</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・6年生は国語、算数とも国や県の平均を下回っている。</li> <li>・6年国語科のB問題では、1名が全問正答であったが、残りの3名が全国平均よりも低く、個人差が顕著に現れる結果となった。</li> <li>・6年社会、理科とも県平均を下回った、特に理科について差が大きくなった。5年までの理科の学習用語などの定着が不十分であった。今後、復習していく必要がある。</li> <li>・4年の算数は、平均正答率を10ポイント以上回っていて、良好な結果であったが、県平均に達していない児童1名は個別に指導する必要がある。</li> <li>・6年国語 A2の平均正答率が25%で、国平均正答率を下回っており、手紙の後付けに必要な、日付、署名、宛名など具体的な順番や書く位置に課題が見られる。</li> </ul> <p>(2) 児童生徒質問紙（金沢型学習スタイルに関連する設問等）の結果より</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・質問紙「授業では、自分の考えを発表する機会が与えられていた」の回答では、平成27年～平成29年まで、3年連続肯定的な意見が100%であった。日頃から発表する機会を授業中に多く取り入れてきたことが成果として見られた。</li> <li>・質問紙「自分には良いところがあると思う」の回答では、平成27年から肯定的な割合が徐々に低くなってきた。授業中や、その他の活動で児童を認め、褒める場面を多く取り入れることが必要である。</li> </ul>
--

2 重点的に行う取組と検証 ※1学期と変更した箇所は「MSゴシック体」にする

		授業で行う取組		授業以外で行う取組	
		取組①	取組②	取組①	取組②
取組	重点的に行う	算数用語を使い、まとめを自分の言葉で話し、書かせる。	言葉や図、式等を使って、ノートに根拠や考えた過程を書く指導をしている。	毎週末に、家庭学習で、目的に合った文や、条件付きの文を書くことに取り組みさせる。	朝学習をモジュール型で取り組み、基礎学力の定着をはかる。
検証の方法と指標	指導の状況	<b>方法</b> 算数の時間に、算数用語を使って、まとめを指導する。 <b>指標</b> 実施率100%	<b>方法</b> 小部会で各学級のノートを交流する。 <b>指標</b> 毎月1回以上の交流	<b>方法</b> 日記帳、頑張りノート（自学ノート）等で状況を確認。 <b>指標</b> 週1回以上	<b>方法</b> 音読・漢字・計算を繰り返し練習させる。 <b>指標</b> 毎週
	児童生徒の状況	<b>方法</b> 学期末の児童アンケートで確認する <b>指標</b> 児童アンケートの肯定的な意見の割合85%以上	<b>方法</b> 毎月末の学習規律アンケートで確認。 <b>指標</b> 児童アンケートの肯定的な意見の割合が90%以上	<b>方法</b> 毎週末に量、内容など条件に合わせて日記帳などに書く。 <b>指標</b> 条件に合う文章が書けるようになる子が全校の70%以上	<b>方法</b> 漢字テスト・計算テスト（技能）で確認する。 <b>指標</b> 漢字テスト及び、計算テスト（技能）の正答率8割以上の児童が全校児童の60%以上

### 3 年間計画



月	PDCA	授業で行う取組	研究授業	授業以外で行う取組
8 ・ 9 月	計画	<b>研究主任</b> が学力向上策を立案する。 <b>教務主任</b> が小部会を設定し、 <b>研究主任</b> の提案を受け、 <b>全教員</b> が具体的な取組について共通理解する。	畑中講師	<b>研究主任</b> が学力向上策を立案する。 <b>全教員</b> が条件に合わせた作文を書く指導について共通理解をし、指導していく。
	実践	<b>全教員</b> が言葉や図、式等を使って、ノートに根拠や考えた過程を書く具体的な指導について話し合い、小部会等で確認する。	坂口教諭 瀬町教諭	<b>全教員</b> が朝学習で、漢字計算の習熟を図るように、取り組んでいくと共に、ミニテストで定着を図る。 <b>全教員</b> がきめ細かな評価を行う。作文については、必要に応じて書き直しをさせる。
11 月	検証	<b>研究主任と教務主任</b> が指導の状況を集約し、学級間差を確認する。 <b>研究主任</b> が指導の状況を確認し、 <b>教頭</b> とともに改善策を提案する。 <b>全教員</b> が改善策を共通実践する。	林教諭	<b>全教員</b> が国語・算数テストの結果から、個別に指導する。 <b>小部会</b> で児童の状況について把握する。
	改善	<b>教務主任</b> が指導の状況及び児童の状況についての達成状況をまとめる。 評価問題を「学力向上の取組（2学期）」の検証の機会とする。		<b>小部会</b> で指導の状況及び児童の状況について確認し、 <b>教務主任</b> が達成状況をまとめる。
12 月	検証	<b>校長・教頭・教務主任・研究主任</b> が2学期の成果と課題を整理する。		<b>校長・教頭・教務主任・研究主任</b> が2学期の成果と課題を整理する。

平成30年1月以降は、「学力向上の取組（3学期）」に基づき実践するため、各学校は以下の内容について、加除修正する必要はない。

1月	評価問題の結果に基づき、「学力分析シート」を作成する。 分析結果から「学力向上の取組（3学期）」を作成する。
2、3月	「学力向上の取組（3学期）」に基づき実践・検証・改善を行う。